

□「淀川水系の現状と課題」についての委員からの質問・意見

○川崎委員

第 58 回委員会資料 4（淀川水系の現状・課題）に対する一コメント

人と川のつながり、景観の課題（コンクリート護岸など）、河川敷利用についての項目はこれからの大変重要な視点と考えている。とくに、河川区域外の流域における人間・地域活動を評価する視点が重要と思われる。たとえば河川敷水辺の利用においては、各利用委員会において申請に対して許可審査が行われている。自然河川らしいあり方を生態的な側面から保全するという視点も重要であるが、人間活動や都市の側面から、流域の土地利用状況、都市生活の実情（公園面積、公共施設配置など）を丁寧に対象ごとに判断評価することが重要であろう。都市活動と自然環境との間の妥協点の位置を見出すことになるが、このことは、場所によって異なるものとする。沿川住民の都市活動を補うための河川の使用法を認め、元気で健康な沿川市民を育むことは、結果として川への積極的関与を生むものになるとと思われる。

## 意見書

河田恵昭

### 1. 流域の土地利用の変遷が明示されていない。

現状に関する記述はあるものの、山林等、農地、市街地などの割合の変遷が示されていないため、流出特性の変化についての傾向を読み取ることが困難である。流量改訂が単なる安全度の向上につながるものでなく、土地利用の変化による危険性の増大に対応していることを知る必要がある。

### 2. 整備基本方針が 30 年先をみなすものであれば、南海地震の発生を視野に入れて堤防等の施設の耐震補強、液状化対策を積極的に進めなければならない。

南海地震が、遅くとも今世紀半ばまでには発生することは常識である。その場合、淀川流域の河川施設の大半は、震度 6 弱から 5 強の揺れに遭遇すると考えられる。また、同時に発生が予測されている東南海地震に際しても三重県を中心に、震度 6 弱程度の揺れが予想されている。したがって、地震による河川施設の被災が、つぎの洪水氾濫災害の発生につながらないような複合災害対策を進めなければならない。この点の記述が一切見られない。もし、現在すでに施行中ならそのことを記載しなければならない。

### 3. 淀川流域の治水の目標が昭和 28 年の 13 号台風時の降雨になっている。

政府の中央防災会議の「大規模水害対策に関する専門調査会」では、現在、江戸時代までさかのぼって既往最大洪水流量を見直し、そこでは再現期間 500 年(2.4 万 m<sup>3</sup>と 1000 年(2.6 万 m<sup>3</sup>)を対象とした検討を行っている。この取り扱いは順次、淀川や木曾川に適用される予定である。これは国土交通省の意図では必ずしもないが、内閣府が提示しようとしている「首都洪水大綱(仮称)」はこのような視点でまとめられることは間違いのないところである。このような内閣府の超過洪水の設定と淀川での近畿地方整備局の設定があまりにもかけ離れている。したがって、治水の長期目標をもっと明確に示し、昭和年代の既往最大流量の位置づけを明確にすべきであると考えられる。

### 4. スーパー堤防だけが唯一の超過洪水対策になっている。

スーパー堤防の整備には 100 年から 200 年、恐らくそれ以上の年月が必要であろう。それまでの間、現状の堤防は暫定的にも補強しなくてよいのか。また、超過洪水がスーパー堤防の天端高を超えた場合、堤内地に入った氾濫水はどのように処理するかが議論されていない。超過洪水に対してスーパー堤防は万全ではないことを理解して、最悪シナリオを求め、複数の内容からなる治水対策の優先順位、優先地域を決定する手順を採用すべきであろう。

### 5. 桂川や宇治川の府県管理区間での治水の考え方の流域全体との整合性

治水水準の向上では、京都府や滋賀県が管理する区間での河川改修に伴う流量増加は、結果的に淀川本川でどのように対応しようとしているかと関係している。現地視察の結果から、府県管理区間は氾濫災害が起こっていなければこれまでほとんど維持管理されず放置されていたと推察される。とくに大戸川の河床上昇は顕著であって、洪水氾濫発生の原因は、異常降雨だけではなく河川の堤外地の普段の維持管理が適切でないことにもあると考えられる。したがって、国直轄区間の治水方針や治水施設の整備では当然のことながら府県レベルで管理区間との調整が必須となっている。しかしながら、この作業は従来実務者レベルで協議し決定されており、その方針が必ずしも流域全体の治水とバランスが取れているとは言えない。したがって、府県レベルでの河川担当者が淀川流域委員会に河川管理者の一員として参加し、議論に加わるべきであろう。住民参加を謳うのであれば、まず知事、市町村長を通して地域住民の意見の総意が淀川流域委員会によりいっそう届けられることが肝要であろう。

## ○澤井委員

「淀川水系の現状と課題」への質問と意見

澤井健二

### P.1 人と川との繋がり

「川や湖と人々の生活が遠ざかった。」というのは、その通りだと思います。それを修復するには、イベント等を通じて、川の魅力とともに、川の現状をさらにPRし、整備とまではいかずとも、維持活動に住民が積極的に関与できるよう、工夫が必要。

### P.3 淀川の変遷

自然地区と人工的利用地区のバランスを考えて、自然地区では直線化した低水路や高水敷をもとに戻すべき。

### P.5 ダム群。(8ダム+2堰)

→ この数は、国土交通省(水資源機構を含む)所管のものであって、農水省や府県管理のものを含めるとさらに多くある。

### P.10 猪名川における河川縦断方向の連続性の分断。

→ 河川縦断方向の連続性の分断は猪名川に限らず、桂川等においても深刻。また、直轄区間よりも指定区間で深刻。

### P.16 淀川の水質。平成7年以降、環境基準を満足しており、近年は桂川、宇治川、木津川、淀川とも水質は安定している。

→ 基準そのものの見直しが必要。

### P.18 寝屋川の水質。環境基準点のうち今津橋は環境基準値を満足していない。他の地点については、近年環境基準値を概ね満足している。

→ 基準値の見直しが必要。

### P.18 ダム水温のデータはどここのダム?

### P.44 木津川水系砂防事業。危険溪流481中、未着手426溪流。

→ 人家数の少ないものも含めればもっとある。

### P.47 渇水発生状況。昭和48、52、53、59、61、平成6、12年。4年に1回。

→ 渇水の定義は?

### P.49 → 近2/20とは?

## ○田中委員

### 淀川の現状・課題に関して

田中真澄

#### 1. 大戸川ダムについて

整備局の 2005 年 7 月の「調査・検討のとりまとめ」では治水単独目的の事業になることで治水分の事業費が増加、経済的に不利になるとの理由で「当面実施せず」と発表されました。

しかし、今回、なぜかその治水目的のダム建設の計画が出されました。委員会の提言・意見書は「原則として建設しない」が基本ですが、整備局側の基礎案では「他に経済的にも実行可能で有効な方法がない場合においてダム建設に伴う社会環境、自然環境への影響について、その軽減策も含め他の河川事業にもまして、より慎重に検討した上で妥当とされる場合に実施する」と記されています。わずかな期間内で、どのような経緯で変更されたのか、多くの課題が残されています。

#### 2. 丹生ダムについて

丹生ダム計画は琵琶湖総合開発計画から約 40 年にもなり、公共事業のあり方として問題提起しています。当委員会が発足されてからも約 4 年間の調査・検討の期間を要しようやく 2005 年 7 月に他のダム検討と同時に「とりまとめ」として計画規模や目的変更等が発表されました。

しかし、今回その具体的な規模や構造が示されず、又、先送りとなりました。この事業こそが大きな課題を残していると云えます。

## ○千代延委員

### 現状の課題に関する質問

#### 3. 1 人と川との繋がり

①河川レンジャーの確保、育成、意欲高揚等に関する現状の課題は何か。

#### 3. 2 河川環境

##### 3. 2. 1 河川形状

##### 3. 2. 2 水位

##### 3. 2. 3 水量

①淀川下流域の大川へのフラッシュ放流に関し、現状の課題は何か。

##### 3. 2. 4 水質

##### 3. 2. 5 土砂

①既設ダムにおける、副ダムによる貯水池への流入土砂の軽減に関する現状の課題は何か。

##### 3. 2. 6 生物の生息・生育環境

##### 3. 2. 7 景観

#### 3. 3 治水・防災

##### 3. 3. 1 洪水

①淀川本川における超過洪水対策と位置づけられているスーパー堤防が、連続して完成するには数百年を要すると考えられるが、それを前提とした現状の課題は何か。

##### 3. 3. 2 高潮

##### 3. 3. 3 地震・津波

#### 3. 4 利水

①渇水時における水融通等（河川法第53条及び第53条の2）一時転用の具体化に関する現状の課題は何か。

②農業用水慣行水利権者の取水設備、取水実態等の把握と通常の情報交換に関する現状の課題は何か。

③農業用水の慣行水利権から許可水利権への切り替えに関する現状の課題は何か。

④少雨化傾向等による水源開発施設の供給実力の低下について、河川管理者から利水者への情報提供に関する現状の課題は何か。

⑤上水道に関して、既往最大の渇水に対しても断水を起こさせないという目標達成のための水道事業者への協力要請に関する現状の課題は何か。

⑥長柄可動堰建設時に認めた淀川下流の緊急かつ暫定水利権量（上水、工水の合計）10m<sup>3</sup>/s についての現状の課題は何か。

#### 3. 5 利用

##### 3. 5. 1 水面

##### 3. 5. 2 河川敷

①河川敷公園等の公共的使用でなく、ゴルフ場等の私的な事業用の利用に関する現状の課題は何か。

##### 3. 5. 3 舟運

##### 3. 5. 4 漁業

##### 3. 5. 5 上下流連携

#### 3. 6 維持管理

①河道内の樹木の過剰な繁茂に係る現状の課題は何か。

②既設ダムにおける堆砂増大に係る現状の課題は何か。

#### 3. 7 関連施設

##### 3. 7. 1 河川公園

以上

## ○本多委員

「淀川水系の現状と課題」への質問と意見

### 1. 基本的な考え方

基礎案では、「検討」「見直し」について結果が出た時点で「流域委員会や住民、自治体等の意見を聞いた上で、決定する」となっているが、原案では、「検討結果が出た時点で、整備計画の変更を行う」となっている。

考え方が変わったのか？ **これは重要な課題である。**

### 3. 現状の課題

#### 3. 1人と川の繋がり

外来種を放つような環境に逆行する人とのかかわりやつながりを課題に入れて置かないと、環境課題としての対策だけでは、その対策のあとからまた人による環境問題が生じると思う。人の課題を明確にすべきと思うが、見解は？

#### 3. 2. 1河川形状

ダムによる縦断方向の分断について、課題を整理し、例えば土砂、魚、水(水質、温度、流れ・・・)、分断した上下を無理やり人工的につなげる(土砂など)も大切であるが、ダムの下流域にダムの伏流水を水源とした上流機能に値するものを復元しつなげることも生物にとって自然な上下の連続性の維持になるのではないかと？

#### 3. 2. 6生物の生息・生育環境

ブルーギルやブラックバスなど環境対策だけでなく人のかかわり対策も課題ではないか？ 見解は？

#### 3. 3. 1洪水

地球環境が大きく変わり、日本をすっぽり覆うような大型台風がいくつも来たり、都市部に洪水をもたらしても上流部に雨が降らない局所的な現象が増えたり、色々なところの河川で破堤するような大雨が降ったりとこの環境の変化にどう対応するのかというのが、これからの治水の課題である。

そのためにも流域委員会は、「いかなる洪水に対しても壊滅的被害の軽減」を提言して来た。

その環境が変わってきた事に対する課題が、わかりにくい。

特に桂川では、どのような課題で取り組もうとしておられるのか？

考え方が変わったのか？

また、堤防強化について現在の強化方法の課題は何か？ いかなる洪水にも壊滅的被害を回避できるかという堤防強化の課題を持っておられるのか？

#### 3. 5. 2河川敷

河川敷の利用で、現在取り組みを進めておられるが、推進する上において合意形成を進めるためにどのような課題・問題があると思われるのか。

その他

河川レンジャーの課題(一般的問題、わからないこと、手探りな課題、仕組み上の問題、成果上の問題、人材上の問題、連携上の問題など)は何か？

原案の1頁には、Plan,Do,Check,Action のサイクルによって計画を見直すという基本的な考え方が示されており、今回の原案は、これまで基礎案に基づいて実施、検討がなされてきた施策に対して、委員会が提示してきた「進捗点検についての意見」や「琵琶湖の水位管理をめぐる論点と課題」、「水需要管理の実現に向けて」等の意見書によって指摘された意見を踏まえて課題を整理した上で、現時点における河川管理者の捉えている「現状の課題」であると理解している。このような理解の基に以下の質問を提示するので、簡潔に回答願いたい。

### 3. 1 人と川との繋がり

- ・関係省庁、自治体等との連携について、問題点や課題があれば、委員会に報告するとともに、広く一般に公開して住民にその連携施策の妥当性の判断材料を提供することになっているが、基礎案策定以降、そのような事例はなかったのか。
- ・河川レンジャー活動における現状の課題は何か。
- ・水源地域ビジョンの策定および推進に関する現状の課題は何か。

### 3. 2 河川環境

- ・「多自然型川づくり」の評価の実施に係わる現状の課題は何か。
- ・河川環境の保全・再生の指標設定について、関係機関と連携した検討についての現状の課題は何か。
- ・河川管理者以外のものが管理している施設について河川環境の改善の観点から、施設管理者に対して施設の改善等について指導・助言を行った事例はあるのか、これに関する現状の課題は何か。

#### 3. 2. 1 河川形状

- ・現状の堰、落差工において、魚類等の遡上・降下に配慮した構造の検討及び小規模改築の実施に関する現状の課題は何か。
- ・本川と支川との合流部において、魚類等の遡上・降下に配慮した構造検討に関する現状の課題は何か。
- ・既存ダムにおける魚類等の遡上・降下が可能な方策の検討に関する現状の課題は何か。
- ・魚類等の遡上・降下に大きな影響を与えていると想定される指定区間の堰等の構造物についての調整に関する現状の課題は何か。
- ・琵琶湖における内湖・湿地復元のための調査・試験施工の実施及び琵琶湖と流入河川、水路、水田等の陸域との連続性回復についての滋賀県との連携・調整に関する現状の課題は何か。

#### 3. 2. 2 水位

- ・「琵琶湖の水位管理をめぐる論点と課題」（平成19年1月30日）p19の（4）瀬田川洗堰の試行が残した課題に記述されている内容を現状の課題としてどのように捉えているのか。
- ・イタセンパラを始めとした在来魚の著しい減少、水草、藻類の発生と大堰試行操作との関連を現状の課題としてどのように認識しているのか。

#### 3. 2. 3 水量

- ・淀川大堰下流の汽水域の生物に配慮した放流量やアユ等の遡上を促す放流量及び有効な堰の操作方法についての検討に関する現状の課題は何か。
- ・流況の平滑化等に伴う河川環境に対する影響を改善するため既存ダムで行っている試験操作の実施に関する現状の課題は何か。
- ・淀川大堰下流、大川、神崎川の維持流量の早期の検討に関する現状の課題は何か。
- ・淀川下流の魚類の斃死は現在でも続いている現象か。

#### 3. 2. 4 水質

- ・琵琶湖・淀川流域水質管理協議会の設立検討に関する現状の課題は何か。特に「琵琶湖・淀川流域圏の再生協議会水環境に関する分科会」における検討に関する課題は何か。

- ・淀川流域の水物質循環に係わる調査の実施に関する現状の課題は何か。
- ・琵琶湖北湖の底層の水質状況及び有機生堆積物の状況把握のための滋賀県と連携した調査に関する現状の課題は何か。
- ・既存ダム湖における水質及び放流水質保全対策に関する現状の課題は何か。特に副ダム活用に関する課題は何か。
- ・沿岸海域の水質も視野に入れた総負荷量削減のための関係機関や住民との連携に関する現状の課題は何か。
- ・近年における医薬品の検出について、現状の課題としてどのように認識しているのか。
- ・流水保全水路の維持についての現状の課題は何か。
- ・底質モニタリングの実施に関する現状の課題は何か。

### 3. 2. 5 土砂

- ・土砂動態のモニタリングを踏まえた総合土砂管理方策についての関係機関と連携した検討による現状の課題は何か。
- ・砂防施設について総合土砂管理方策の観点から踏まえた整備に係わる現状の課題は何か。
- ・既存ダムにおける土砂移動障害に関する現状の課題は何か。

### 3. 2. 6 生物の生息・生育環境

- ・外来種対策の実施に関する現状の課題は何か。

### 3. 2. 7 景観

- ・新築・改築する施設等についての周辺景観との調和に関する検討に関する現状の課題は何か。また、河川管理者以外が設置する構造物の許認可に際して指導・助言を行った事例とこれに関する現状の課題は何か。
- ・ダム貯水池斜面における裸地対策としての緑化についての検討及び試験施工に関する現状の課題は何か。

### 3. 3. 1

- ・戦後最大洪水発生時のみならず、様々な規模の洪水が発生した場合において、どの地点でどのようなこと（浸水、洗掘、浸透、越水）が生じる恐れがあるのか、さらにそのことによりどのような被害が生じる恐れがあるのかについては、洪水に関する現状の課題認識のもっとも基本的な資料として、流域委員会の初期に河川管理者によって示されたが、その後の事業の進捗を踏まえた、現時点の資料を提示し現状の課題を示されたい。
- ・破堤による被害の回避・軽減のための施策として提示された「水害に強い地域づくり協議会（仮称）」の設置、関係者の連携および「自分で守る」、「みんなで守る」、「地域で守る」のそれぞれで実施、検討するとして各施策に関する現状の課題は何か。
- ・高規格堤防実施に関する現状の課題は何か。
- ・越水に対する堤防補強に関する現状の課題は何か。
- ・上野遊水地越流堤構造の詳細検討に関する現状の課題は何か。
- ・塔の島地区河道掘削に関する現状の課題は何か。
- ・森林の保全・整備の検討についての関係機関との連携についての現状の課題は何か。

### 3. 3. 3 地震・津波

- ・多くの河川管理施設で耐震点検が実施されていない理由は何か。
- ・緊急用河川敷道路が、伝法～木津川大橋で連続的に通行できない区間が残っている理由は何か。
- ・津波に関して沿川住民や利用者への情報伝達システム整備が遅れている理由は何か。
- ・津波ハザードマップの作成・公表支援に関する現状の課題は何か。
- ・津波に関して、住民への広報・学習の実施に関する現状の課題は何か。

### 3. 4 利水

- ・利水者の水需要についての精査確認に関する現状の課題は何か。
- ・利水者の用途間転用に関する現状の課題は何か。
- ・農業用水慣行水利権の実態把握に関する現状の課題は何か。
- ・既設ダムの再編・効率的運用による渇水対策についての検討及び実施に関する現状の課題は何か。



- ・水需要抑制策を含めた総合的水利用検討のための組織づくりに関する現状の課題は何か。
- ・利水者、自治体、関係省庁、河川管理者の連携による平常時からの水利用に関する情報交換・水需要抑制についての協議に関する現状の課題は何か。
- ・節水について、住民活動、水需要抑制の実践者などの有識者の参加を得た具体的行動の提起に関する現状の課題は何か。
- ・意見書「水需要管理の実現に向けて」における提案や課題の提示についての河川管理者の見解およびこれに係わる現状の課題は何か。特に、伊賀水道用水供給事業の新規利水について、大阪市及び京都府との水利調整に関する現状の課題は何か。

### 3. 5. 1 水面

- ・大堰下流への移設も含めた水上オートバイの利用規制についての現状の課題は何か。
- ・瀬田川における水上オートバイによる騒音及び水質の問題についての関係機関と連携した調査の実施に関する現状の課題は何か。
- ・水上オートバイやプレジャーボート等レジャー用動力船の通行禁止区域及び通行制限区域の設定に関する現状の課題は何か。
- ・瀬田川水辺協議会における既存の棧橋・係留施設の集約・共有化並びに水辺のあり方についての検討に関する現状の課題は何か。
- ・水辺のアプローチ整備の実施や堰等横断工作物改善に関する現状の課題は何か。
- ・既存ダム湖における湖面活用検討に関する現状の課題は何か。

### 3. 5. 2 河川敷

- ・河川保全利用委員会の設置、運営に関する現状の課題は何か。
- ・違法行為是正実施計画の策定及び実施に関する現状の課題は何か。
- ・河川敷におけるホームレス対応に関する現状の課題は何か。
- ・迷惑行為についての啓発活動実施計画の策定及び実施に関する現状の課題は何か。
- ・既存ダムにおける周辺環境整備検討および周辺施設利用促進・強化実施に関する現状の課題は何か。

### 3. 5. 3 舟運

- ・枚方から三川合流点までの航路確保検討に関する現状の課題は何か。
- ・毛間閘門の航行可能時間や運用手法の検討に関する現状の課題は何か。

### 3. 5. 4 漁業

- ・琵琶湖における漁獲量減少と琵琶湖・河川環境との関わりについて現状の課題は何か。

### 3. 5. 5 上下流連携

- ・「ダム等が上下流をつなぐ橋渡し役としての活動が求められている」とは何か。
- ・水源地域ビジョンの策定及び推進に関する現状の課題は何か。

### 3. 6 維持管理

- ・維持管理費と新築・改築予算の配分についての現状の課題は何か。
- ・堤防除草刈草の処理に関する現状の課題は何か。
- ・許可工作物について、利用されていない施設の調査および不要なものの撤去に関する現状の課題は何か。
- ・バイク止め等の構造・設置方法検討に関する現状の課題は何か。
- ・連続性のある小径確保に関する現状の課題は何か。
- ・水難事故防止協議会（仮称）の設置、運営に関する現状の課題は何か。
- ・不法投棄の摘発・取り締まり強化に向けた関係行政機関との連携および組織の設置に関する現状の課題は何か。
- ・不法投棄マップ作成に関する現状の課題は何か。
- ・ダム放流に係わる警報装置や監視カメラ設置および自治体、警察、消防署等との連携によるソフト面での充実強化に関する現状の課題は何か。
- ・既存ダムにおける流木の有効活用の実施に関する現状の課題は何か。

## ○村上委員

「淀川水系の現状と課題」についての意見と質問

村上哲生

羅列的ではなく、整備計画原案で最も重要な争点になりそうな課題に絞った資料作成と説明を望む。環境については、

- 1) ダムによる河川連続性破壊の質と規模の推定、及び連続性を確保するための保全策の有効性
- 2) 本川のワンド再生事業に、「川が川を作る」理念が生かされているか。
- 3) 特定の生物の増殖と排除事業が河川生物群集全体に及ぼす影響の評価、及びその事業を地域住民に理解してもらうための具体的方策
- 4) 「望ましい河川」の提案（例えば、砂河川の木津川は、歴史的にずっとそうであって、今後ともそれが望ましい姿であるのか）

について、資料作成と説明をお願いしたい。

尚、配布資料については、

- 1) 情緒的な写真ではなく、データを伴った資料を作成してほしい。例えば、15p 干出魚卵については、干からびた卵の写真ではなく、干出ヨシ帯の面積や、あれば干出魚卵の数の推定値等の数値の提示を望む。
- 2) 傾向分析については、データの詳しい属性、処理の方法等を記載し、恣意的な意見操作の疑念を抱かせないようにすること。例えば、p48, 49 の少雨化傾向を示すグラフは、今後の議論に重要な意味を持つ可能性があり、慎重な扱いが必要である。